

# 生涯にわたって音楽を愛好するための 音楽科授業の創造Ⅱ

— 小学生との合同演奏を取り入れたミニコンサートを通して —

松 前 良 昌 ・ 黒 瀬 基 郎\* ・ 濱 本 恵 康\*\*

## The Creation of a Junior High School Music Class that Engenders within the Students a Love of Music that Endures Throughout Their Lifetimes - Part II -Through the Planning and Performance of a Joint Concert for Elementary School Children-

Yoshimasa MATSUMAE, Motoo KUROSE, and Yoshiyasu HAMAMOTO

**Abstract.** The purpose of this study is to verify that the implementation of the class curriculum will effectively influence students to love and enjoy music for the rest of their lives.

The specific plan to be adopted by the class; "Let's produce a mini concert", is one in which the author implemented as an optional subject that continues from last year. In this class, junior high school students plan and hold a mini concert for a group of elementary school students. This year, in particular, they will actually be performing with many of the younger students. The author expects that the concert will make a deep impression on the audience as well as stimulating the students eagerness for performing, thus establishing this experience as their higher eventual goal. The author aims to foster a fine sensitivity for music through this activity during which the performers will realize how wonderful audience-conscious musical expression is. The author also desires to consider the relationship between this study and the study theme of our school.

**Key words :** a love of music that endures, produce a concert, audience-conscious musical expression,  
a group of elementary school students, a joint concert

### I. はじめに

筆者は、生涯にわたって音楽を愛好する生徒を育てるためには、幅広い音楽活動を通して、その楽しさや喜びを味わわせることが必要であると思い、必修音楽・選択音楽の授業をおこなってきた。

一昨年度から、第2学年と第3学年合同の選択音楽の授業では、「ミニコンサートをプロデュースしよう」と題し、本校に隣接する広島大学附属東雲小学校の児童を対象としたミニコンサートを企画し開催している。その中で今年度は、小学生との合同演奏を試みた。

本研究は、その授業実践について述べていくが、昨年度の延長線上に位置するものである。

---

\* 広島大学大学院教育学研究科教授、広島大学付属東雲中学校長

\*\* 広島大学大学院教育学研究科助教授

## Ⅱ. これまでの実践

筆者はこれまで、必修音楽・選択音楽だけでなく、学校行事にも関わって様々な実践を試みてきた。昨年度までの概要については、本校の昨年度の紀要で述べているので、今年度の実践を中心に概要を述べる。

### 1 必修音楽における実践

合唱活動では、校内合唱コンクールを大いに活用し、かなりの時数を合唱指導にあてた。今年度も、PTAをはじめ多くの方々のご協力で、校内合唱コンクールを校外のホールで開催することができた(図1)。選曲において、生徒が昨年度以上に難易度の高い曲を希望し、練習も大変であった。しかし、事前にしかも自発的にクラスで音取りをしてくるなど、予想以上に意欲的に取り組む姿勢が見られた。毎日、早朝から自主練習するなどの、生徒の日頃の努力もあり、これまで以上の感動を得ることができた。この本格的ホールでの開催は生徒はもちろん保護者・教師にも大変好評で、来年度も引き続き開催する予定である。



図1 校内合唱コンクール

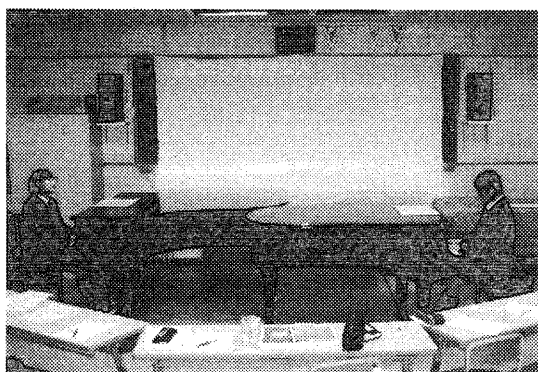
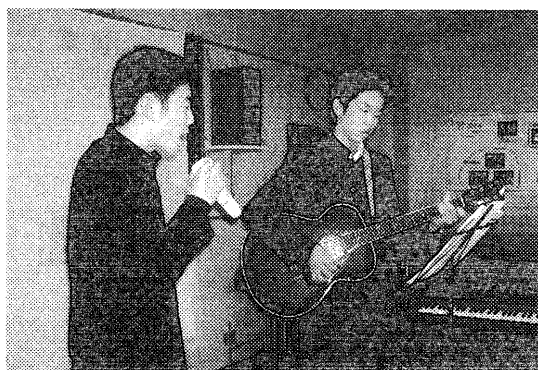


図2 総合実技発表会

必修音楽では3年間のカリキュラムを通して、生徒が音楽発表をする機会を多くもつよう心がけている。

その発表会において、今年度は、生徒間の相互評価を試みた。このことは、お互いの演奏を集中して聴き、評価することで、自分自身の演奏を客観的に評価し、よりよい演奏をしたいという意欲へつながるとの予想からである。今後、より深く研究した上で発表していきたい。

第3学年の後期には、今年度も総合実技発表会を開催し、自由な演奏形態で発表できる場を保障することで、それまでの授業で引き出せなかった生徒たち個々の音楽性を引き出そうとした(図2)。今回の生徒は、第1学年の時から、第3学年の最後に総合実技発表会があると認識しており、それに取り組む先輩の姿を目にしてきた。そのこともあってか、実施要項を発表する前から取り組む生徒もいた。継続して実施することで、生徒に計画性

をもって、より意欲的に取り組ませることができたと考えられる。生徒は、主体的かつ意欲的に活動し、内容的にも一人ひとりの個性があらわれた発表会であった。生徒の感想も、お互いを賞賛するものが多くあった。

### 2 学校行事に関わる実践

「音楽科」として「芸術鑑賞会」などの学校行事についても今年も積極的に関わった。

今回は、和太鼓の演奏家を招待した(図3)。生徒は間近で迫力のある演奏を聴き、後日書かせた感

想からも、その熱演に大変感動していたことが明らかとなった。加えて、直接聞く機会の少ない演奏を鑑賞することができ、音楽的視野を広げる要因になったと思われる。

### 3 選択音楽における実践

本校では第2学年と第3学年合同の選択音楽と、第3学年のみでの選択音楽がある。前者は後で詳しく報告することとし、ここでは第3学年のみでの選択教科について述べる。

一昨年より、選択音楽の授業では、「音楽を極める」と題し、少人数であることを利用し、より専門的に音楽活動をする中で芸術性を高めることをねらいとして実践してきた。その発表の場として、今年度も夏休み前に全校の鑑賞希望者（生徒・教師）を対象にコンサートを開催し、また、文化祭では全校生徒・保護者の前で発表させた（図4）。演奏は昨年以上の出来であった。昨年、運営面で課題を残したが、今回は綿密に打ち合わせることで、スムーズに時間通り開催することができた。



図3 芸術鑑賞会（和太鼓）

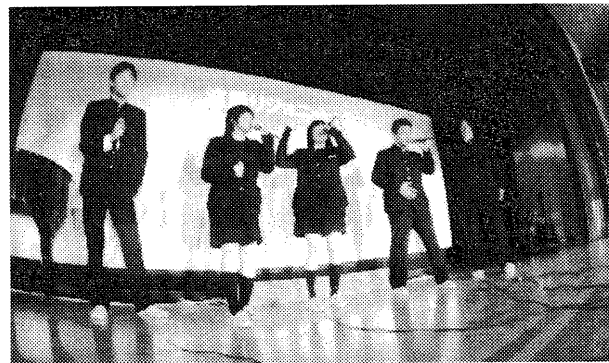


図4 文化祭でのコンサート（選択音楽3年）

## Ⅲ. 小学生を対象としたミニコンサート ～ミニコンサートをプロデュースしよう～

第2学年と第3学年合同の選択音楽の授業では、一昨年度から、「ミニコンサートをプロデュースしよう」と題し、本校に隣接する広島大学附属東雲小学校の児童を対象としたミニコンサートを企画し開催させた。以下に今回の実践内容を述べる。

### 1 題材設定の理由

一昨年度から、小学生を対象としたミニコンサートを開催している。プログラム構成は、器楽合奏・ダンスなど聞き手を意識したとし、選曲にも配慮した。その結果、大きな拍手の中、感動のうちに発表を終えることができた。

今回のコンサートでは、小学生との合同演奏を試みた。中学生が楽器を演奏し、小学生とともに歌うこととした。これまでは、中学生の演奏のみであったが、合同演奏をすることにより、小中合同の音楽活動の可能性を模索することも意図した。基本的には、これまでの流れの中にあるが、ミニコンサートの最後に「異年齢集団」との合同演奏をすることで、聴き手の小学生たちも「一緒に演奏したい」と思うような、人の心を動かす音楽表現活動を、生徒の目標にさせた。また「コンサートの企画・運営」においても、生徒自らが決定し実行する場を最大限に設定した。生徒は主体的に様々な活

動を経験し、喜びを味わうことにより、自分自身が自らの演奏に満足する状況から、聴いてくれるみんなとともに演奏に満足する状況を望むように意識が向上してくると考えたからである。このことによって、生徒は次第に質の高いコンサートを求めるようになり、そのためには理論や技術も必要不可欠であることをより強く意識させていきたい。筆者は、この音楽表現活動の実践を通して、生徒たちに自ら表現し伝えることのすばらしさを体験させるとともに、聴き手の心を動かすことの難しさと、それができたときの幸福感を味わわせたい。ひいては表現することの奥深さも感じさせたいと考えた。

## 2 生徒の実態

本校の生徒は音楽に対して興味・関心をもっている生徒が多い。休憩時間にピアノやギターなどで自由な音楽活動をしている生徒も少なくない。また、歌の発表会前になると学校中に歌声がなり響き、合唱コンクールの練習も、早朝から意欲的に活動している。授業においても積極的に取り組む姿勢が多くみられ、これらのことは、音楽的な質の向上にもつながってきていると考えられる。

## 3 指導目標

- (1) 音楽に対する興味・関心を高め、主体的に表現する態度を養う。
- (2) コンサートを通して、音楽表現活動やその企画・運営をする喜びや感動を享受させる。
- (3) 異年齢集団を対象とすることで、聴き手を意識した表現方法の工夫をさせる。
- (4) 異年齢集団と合同演奏することで、協力して表現することのすばらしさを味わわせる。

## 4 指導計画 (2002年4月～11月)

- (1) コンサート内容の検討, 企画・運営の係分担 ..... 4時間
- (2) 音楽練習, 相互発表, コンサート全般の準備 ..... 30時間
- (3) 小学生を対象にしたミニコンサート (3回) ..... 5時間
- (4) 反省会・まとめ ..... 2時間

## 5 コンサート内容の検討

まずはプログラムを構成した(図5)。今回は男子3名、女子17名、計20名と、昨年度の7名に比べて人数が多かった。そこで、教師が司会進行しながら生徒に相談させる形で、プログラム構成を検討していった。まず最初に、生徒個人個人が希望する内容を聞いたところ、ア・カペラやバンドに人気集中していた。そこで、じっくり相談させ調整しながら、ABCDの4ブロックにわけた。そして、1ブロックで1回出演ということにして、練習が重ならないように配慮させながら、演奏形態を決めた(図6)。結果として、3年生が気を配って2年生に譲るといった場面が多かった。

次に、選曲にあたっては、児童がどんな曲に興味・関心をもっているかをまず最初に考えさせた。自分た

ミニコンサートプログラム	
Program	2002.11.22. 11:30-12:20
1 はじめの言葉	演奏形態
2 紅葉 同声合唱曲集「唱歌の四季」より	女声合唱
作詞/高野辰之 作曲/岡野貞一 器曲/三善 晃	
3 君をのせて 「天空の城ラピュタ」より	女声アンサンブル
作詞/宮崎 駿 作曲/久石 譲	
4 Can You Keep A Secret 《宇多田ヒカル》	器楽合奏&歌・手話
作詞・作曲/宇多田ヒカル	
5 夜空ノムコウ 《SMAP》	ア・カペラ
作詞/スガシカオ 作曲/川村 結花	
6 君をさがした 《CHEMISTRY》	二重唱&ピアノ
作詞・作曲/川口大輔	
7 secret base ～君がくれたもの～ 《ZONE》	バンド
作詞・作曲/町田記彦	
8 カナシミブルー 《Kinki Kids》	ダンス
作詞・作曲/堂島孝平 器曲/CHOKKAKU	
9 いつも何度でも 「千と千尋の神隠し」より	器楽合奏
作詞/宮 和歌子 作曲/木村 弓	
10 歌よありがとう 【小・中学生合同】	合唱&器楽合奏
作詞/花岡 憲 作曲/根本 祥緒	
11 終わりの言葉	

図5 今回のプログラム

ちがしたい曲との多少のズレがあったが、助言する中で調整していった。Cブロックについては、女声合唱をすることになり、男子だけで何をするかは夏休み前によく決まった。Dについては、小学校との調整が必要であり、曲は夏休み中に決まった。

### 6 企画・運営の係分担

児童引率をはじめ、司会進行・ステージ設営・客席準備・照明・音響などすべて生徒がおこなう(図6)。今回はミキサーを購入したことで、音響関係の準備・調整が格段に容易となった。また照明においては、生徒の照明に加え筆者もパワーポイントを照明として利用し協力した。

また、司会は小学生にどのような言葉遣いで接するのがいいか考えて練習をするなど意欲的に活動する場面が多く見られた。

### 選択音楽B

#### ミニコンサートをプロデュースしよう!

演奏メンバー

☆:チーフ ○:サブチーフ

A			B			C			D
ハモ女子	ハモ男女	器楽A	ダンス	バンド	器楽B	合唱	ストリート	みなうた	
☆ 3女d	☆ 3男K	☆ 3女a	☆ 3女H	☆ 3女A	☆ 3女F	☆ 3女a	☆ 3男H	☆ 3女H	
○ 3女i	○ 3女A	○ 2女m	○ 3女k	○ 3女d	○ 3女l	○ 3女l	○ 3男I	○ 3女A	
2女N	3女F	3女h	3男H	2女N	3女a		3男K		
2女G	3女k	3女l	3男K	2女i	3女i				
2女i	3女l	2女T	3男I	2女K	3女h	女子		男女	
2女K	3男I	2女o		2女G	2女o	全員		全員	
2女S	3男H			2女S	2女m				
				2女T					

運営スタッフ

司会・進行	会場・装飾	ステージ運営	照明	音響
☆ 3男I	☆ 3女I	☆ 3女H	☆ 2女T	☆ 3女i
3女A	3女a	3女F	2女i	3女h
3女k	2女m	3男K	2女o	2女G
3女d		2女K	3男H	2女S
		2女N		

履修者一覧

クラス	メンバー	人数	男子	女子
3-1	3男I 3男K 3男H 3女A 3女I 3女F 3女H	7	3	9
3-2	3女a 3女i 3女k 3女d 3女h	5	0	8
2-1	2女K 2女G 2女S 2女T 2女N	5	3	17
2-2	2女i 2女o 2女m	3		
			合計	20

演奏曲目・パート

		A		
		ハモ女子	ハモ男女	器楽A
曲目		「天空の城ラピュタ」 君をのせて		Can You Keep A Secret ?
	パート	☆ 3女d	Mezzo II	☆ 3男K
○ 3女i		Alto II	○ 3女A	Lead Vocal
2女N		Soprano II	3女F	Chorus 1
2女G		Mezzo I	3女k	Chorus 2
2女i		Alto II	3女H	Chorus 3
2女K		Soprano I	3男I	Bass
2女S		Alto I	3男H	Vocal Percussion
			☆ 3女a	Sign language & Vocal
			○ 2女m	Piano
			3女h	Drums
			2女o	Keyboard

		B		
		ダンス	バンド	器楽B
曲目		カナシミブルー		「千と千尋の神隠し」 いつも何度でも
	パート	☆ 3女H	Dance	☆ 3女A
○ 3女k		Dance	○ 3女d	Chorus
3男I		Dance	2女A	E.Bass
3男K		Dance	2女i	Piano
3男I		Dance	2女K	Vocal
			2女G	Keyboard
			2女S	Drums
		2女T	E.Guitar	
			☆ 3女F	Drums
			○ 3女l	Violin
			3女a	Glockenspiel
			3女i	Piano
			3女h	Keyboard
			2女o	Xylophone
			2女m	Alto Saxophone

		C		D
		合唱	ストリート	みなうた
曲目		「唱歌の四季」 紅葉		歌はありがとう
	パート	☆ 3女a	☆ 3男H	Piano
○ 3女i		○ 3男I	Vocal	
		3男K	Vocal	
			☆ 3女H	
			○ 3女A	
				男女全員

図6 生徒の係分担

### 7 練習過程

練習は生徒が中心となってすすめられ、意欲的に活動した。教師は毎回授業の最初に練習内容を確認し、質問に答えたり、演奏に対してアドバイスをする形をとった。今回は、A Bブロックは3つのグループが同時に練習することとなり、音楽室だけの練習は困難となり、外階段や空き教室なども最大限利用した。約半数のグループは能率良く練習すすめ、予定通りに仕上がっていった。中でも手話を使ったグループは、「総合的な学習の時間」で学習した手話を利用し、自分たちでその動作を考えた。また、「いつも何度でも」のグループは、吹奏楽部の生徒が自分が練習している楽器を演奏したり、ヴァイオリンを習っている生徒がその腕前を披露し、音楽的にも質の高いものとなった。しかし、

一方で「君をのせて」のグループはなかなか上手くできず、急遽この曲に変えた。また、ダンスのグループは、一部の生徒がなかなか練習をせずトラブルになりかけたが、指導役の生徒が忍耐強く指導し、次第に上達していった。Cブロックの男子3人は、取りかかりは遅かったが、周りに触発されてからは、意欲的に取り組んだ。その中の1名は、中学2年の頃までは、人前で歌うことは殆どできなかったが、この練習をするようになってから歌えるようになり、周りの生徒の認識も変化していった。

夏休み後に通し練習を行った際、運営面で多くの課題が残されていることに気づいた。そこからは、何度もリハーサルをし、中でもステージ転換の練習に多くの時間を費やすこととなった。このころから、各グループの練習が昼休みなどに多く見られるようになった。

## 8 文化祭本番

ミニコンサートの1回目と2回目の間に、文化祭での発表があった(図7)。ここでは、時間の関係で、生徒と相談の上、いくつかのプログラムに絞って発表した。仲間や保護者が見ているということで、緊張感があったが、堂々と発表することができた。また、昨年の課題であった進行の面も、生徒自身で時間通りに進めることができた。このことは2回目以降の進行がスムーズにいく要因となったと考えられる。

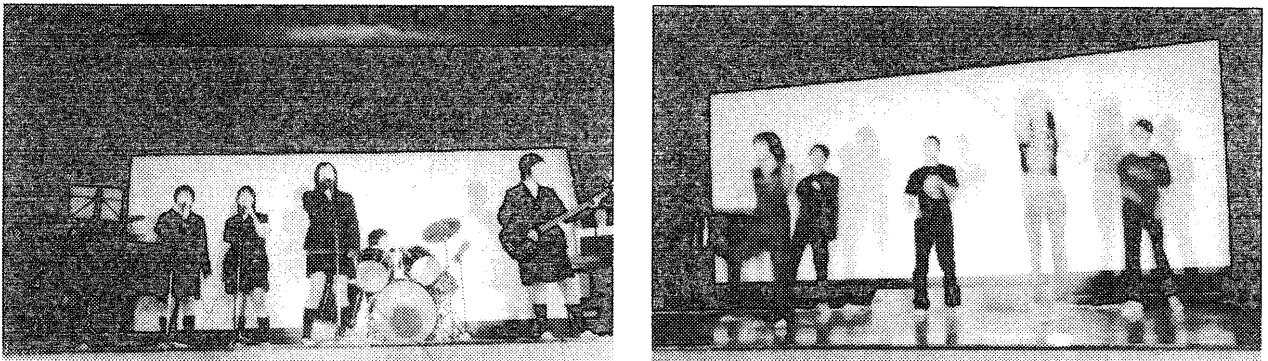


図7 文化祭での発表

## 9 ミニコンサート本番(中学生の発表)

本番は3回おこなった。1回目は小学4年生1クラスを招待し、2回目は小学4年生1クラスと複式学級中学年を招待した(図8・9)。3回目は本校の教育研究会当日としたため、小学3年生1クラスに加えて、多くの教育関係者が聴衆となった。

コンサートは、選択音楽2時限の授業の後半とほぼ時間帯が一致する小学校の1時限を利用して開催した。まず、中学校の生徒が小学校に児童を迎えに行き、中学校音楽室に引率した。そして司会が「みなさん、こんにちは～」と、元気のいい挨拶をしてコンサートが始まり、楽しい雰囲気での終始した。児童は一生懸命聴きながら、笑い、驚き、時には一緒に踊り出すこともあった。演奏後、生徒の司会進行のもと、児童の皆さんから感想を発表してもらい、最後は再び小学校まで引率した。

発表会ごとに生徒に感想を書かせた。それによれば、1回目は、緊張のためか、ややぎこちないところもあったが、ある程度自分たちの納得のいく演奏ができたようである。2回目はスムーズな進行にはなったが、やや緊張感がなくなり、演奏としては自分たちの納得のいく演奏ではなかったようで



ある。3回目は研究会当日ということもあり、緊張の度合いが再び増した。しかし、スムーズに進行し、演奏も自分たちの納得のいく演奏ができたようである。



女声アンサンブル「君をのせて」



器楽合奏&歌・手話「Can You Keep A Secret」



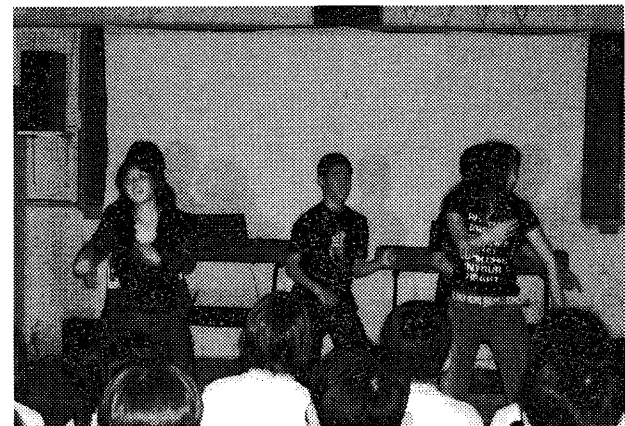
ア・カペラ「夜空ノムコウ」



二重奏&ピアノ「君をさがしてた」



バンド「secret base」

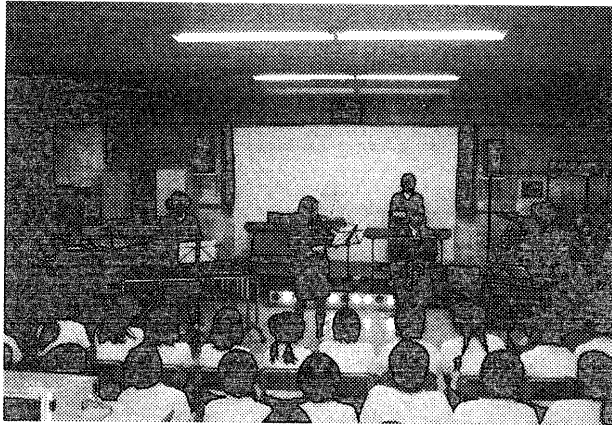


ダンス「カナシミブルー」

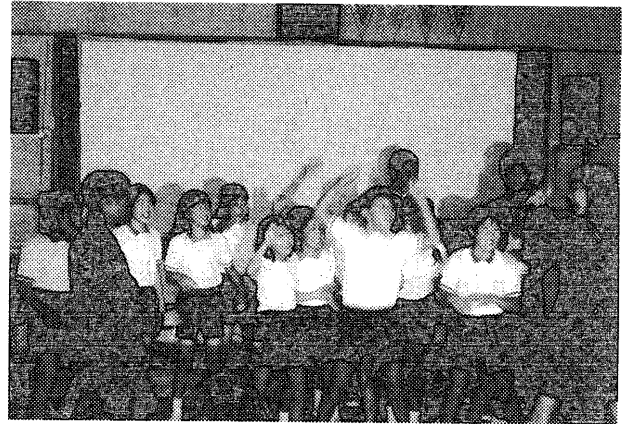
図8 ミニコンサート

#### 10 小学生との合同演奏（練習と本番）

8月の夏休み中に、小学校の先生との話し合いで曲が「歌よありがとう」に決まった。決定が遅れたが、すぐに筆者が楽器編成を考えて編曲し、9月になって練習・リハーサルをはじめた。小学校でも歌の練習をしていただいた。本番では、発表の最後に実施した（図10）。児童の態度は意欲的で、歌



器楽合奏「いつも何度でも」



アンコール ～小学生も参加して～

図9 ミニコンサート

声も大きくのびのびと歌っていた。生徒の指示に対しても反応がよかった。生徒の指示は、小学生の反応を身ながら臨機応変に指示を出し、児童の歌声をさらに大きくするものであった。本番後、生徒に感想を聞いたところ、「小学生が歌ってくれてうれしかった」「一緒に合わせたとき、感動した」などの返答があることから、合同演奏は生徒にとっては、貴重な経験であったと考えられる。小学生にとっても印象深かったようで、その感想には、多くの児童が、最初に合同演奏のことを書いていた。

合同演奏は、筆者にとっても予想を超える感動的な場面であった。

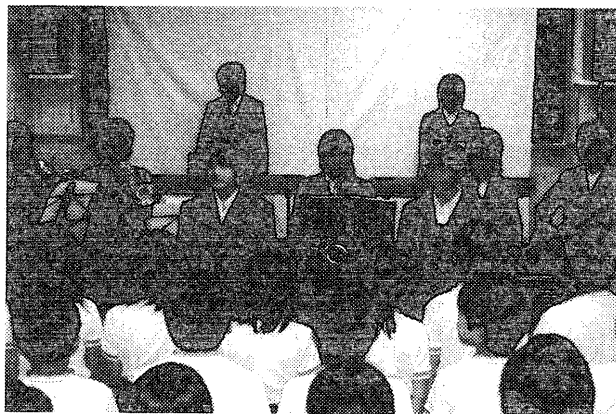
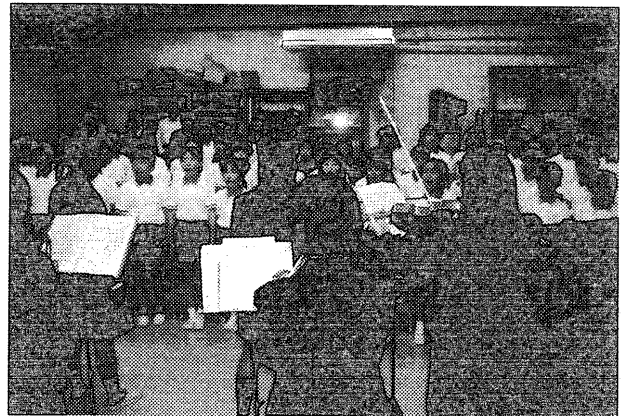
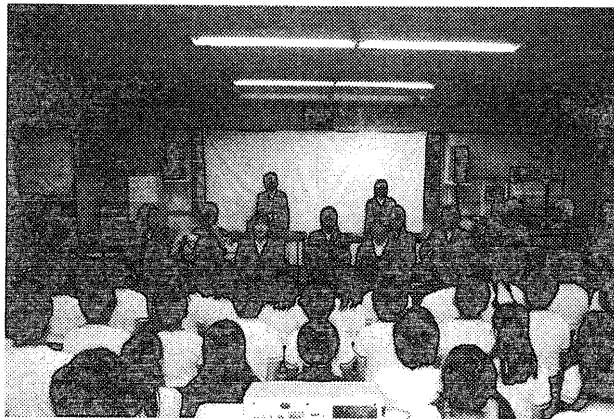


図10 合同演奏「歌よありがとう」



#### Ⅳ. 結果とその考察

コンサート後日、生徒（20名）にアンケートを実施した。全員の生徒が「小学生とのふれあいが楽しかった」という意味の文章を書いていた。他にも、「小学生が真剣に聴いてくれたので、うれしかった」「緊張したけど達成感があった」「アンコールの声がかかってうれしかった」「文化祭も緊張したけど自分のためになった」「小学生と一緒に歌ってくれてすごく感動した」「またコンサートをしたい」など、全員から音楽表現活動をする喜びや感動を得たと考えられる感想が寄せられた。また「司会がうまくできた」「進行がスムーズにできた」「手際よくなった」など、運営についても肯定的な意見が多く書かれていた。

評価基準を提示し、5段階で評価させた（図11）。これにおいても、殆どの項目で多くの生徒が5をつけていたが、何よりも、その時の感想を満足そうに筆者に話しに来るときの生徒の笑顔が、この授業の成功を物語っていたように思う。

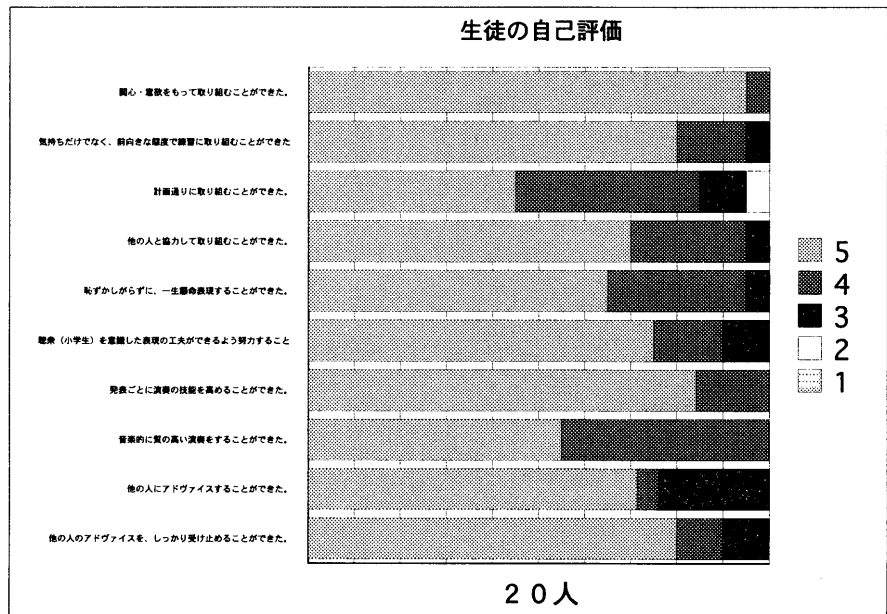


図11 生徒の自己評価

しかし、一方で課題も残った。いくつかのグループに見通しをもった練習をさせることができなかったことである。能率の悪い練習になったことで、練習時間が不足し、よりよい表現を求めていくまでは到達しなかったグループもあった。今後は生徒により見通しをもった取り組みをさせていきたい。また、今回、児童・生徒が合同で活動する場をはじめ取り入れたが、よりよい表現をさせるためには効果的であり、生徒にとって印象深く貴重な経験となることがわかった。今後、今まで以上に小・中音楽科が連携した実践をしていきたいとあらためて実感させられた。

後日、小学校の先生方のご協力で、今回も児童の感想をまとめた冊子が届けられた（図12）。どの感想にも、喜び・楽しさ・驚きなど、コンサートの感動に満ちあふれていた。特に評判が良かったのは合同演奏とダンスであった。一緒に演奏したことに対する喜びや、ダンスのすばらしさに感動したという感想が多く寄せられた。中学生にとっても、コンサートを成功させたという自信、そして今後の様々な活動への意欲につながるであろう大変すばらしいプレゼントになった。

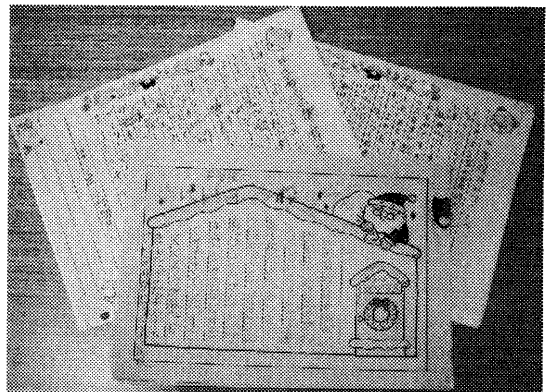


図12 小学生の感想

生徒の感想より

1 プログラムの内容・曲目について

- ・順番とか、よく考えて良かったです。
- ・曲目は、小学生向けで小学生も口ずさんだりして楽しんでくれたのでいいと思いました。プログラムも準備などがスムーズに進むように組み立ててあったのでいいと思いました。
- ・自分たちで考えたのでよかったです。
- ・曲数もちょうどよく、バランスが良かったと思う。
- ・しっかり聴くものや、ノれるものまであってちょうど良かった。

2 練習計画・グループ割り・練習過程について

- ・グループ割りも多すぎず、充実できて良かったです。授業もいろいろ指導していただき、上手になったので良かったです。
- ・手際よい所もあったが、要領の悪い部分もあった。
- ・先生の立てた計画は良かったけど、こっちがちゃんと計画を立てなかった。
- ・バンドは、最初「絶対に出来ん！」と思ってたけど、ここまで出来たのがすごいと思いました。
- ・ハモ女子は、全然練習が進まなくて大変だった。
- ・手話を調べるのが難しく、時間がかかって大変でした。
- ・最初はうまくいかなかったけど、最後には最高のものができてよかったです。
- ・「夜空」はあんまり練習できなかったけど、ダンスや「紅葉」などは結構できました。

3 小学4年生対象、1・2回目のコンサートについて

- ・みんな盛り上がってよかったです。私たちも盛り上がれてよかったです。
- ・はじめはかなり緊張したけど、2回目からは普通にできた。
- ・小学生が「楽しかった」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。
- ・アンコールが来たり、喜んでもらえたので達成感があった。
- ・元気がいいクラスとおとなしいクラスの差がちょっとあって、どんな風に対応すればいいかマイチよくわからなかったです。

4 小学3年生対象、3回目のコンサートについて(研究会当日)

- ・4年生とはちがう、すごい楽しい雰囲気で歌ったりできた。
- ・たくさん先生方に見られて、緊張2倍でした。
- ・後ろの先生方も楽しんでくれて、アンコールの時も参加していただいた。今までで一番よかった。
- ・今までで最高の発表ができていたと思う。

5 文化祭での発表について

- ・すごく緊張したけど、すごく私のためになったし成長できたかなと思いました。
- ・すごくスムーズに進んで、とても良かったと思う。とっても好評で嬉しかったです。みんなが色々言ってくれたから嬉しかった。
- ・文化祭は、いつもの授業より見てる人(聞いてる人)が多いので、すごく緊張しました。でも、練習の成果が出せたので良かったです。
- ・いつもとはちがう照明やステージで、すごく緊張したけど、楽しくできてよかった。

6 小学生の印象について

- ・すごく元気があるなと思った。ダンスとかでも喜んでくれたのでよかった。
- ・うるさいけど、盛り上がり方が上手。かわいい。
- ・とってもかわいかった。すごく素直な子が多いなと思った。
- ・まだ若々しくて、とても元気があって、私たちもやりやすかったです。小学生の方が発表するにはいいと思いました。

7 運営について

- ・照明はやっていてすごく楽しかった。
- ・文化祭が特に運営がよかった。練習の時はどうなるかと思ったけど…。
- ・司会はとてもよかったです。進行の仕方が上手かった。
- ・はじめはマイクの調整などに時間がかかってしまったけど、やるにつれてスムーズにできるようになりました。
- ・結構、みんなの台詞かんがえてみたんだけど、もうちょっと時間をムダにしないものにしたかったなと思いました。
- ・自分の責任を一人ひとりが果たせて、スムーズにできたのでよかった。

8 全体を通して

- ・楽しくて、実は涙が出そうになりました。
- ・とても楽しかった!!! 最初はぼろくそでどうなることかと思ったけど、最後は完璧でした! これまでの選択の中で、一番楽しかったです! またこのメンバーで選択音楽をやりたいです! 本当に楽しかったです! ありがとうございます。
- ・発表の場面で、課題の残るところがあったけど、すごく演奏したりするのが楽しいなと思った。少しずつでもうまくなって合わせたりするのが、すごくうれしかった。
- ・また、小学生の前で発表したいなと思いました。
- ・自分自身が楽しかったし、見に来てくれた人たちもよかったと言ってくれたので選択音楽サイコ→!! でした。

## V. おわりに

研究会当日の授業後、授業参観者より分科会において授業に対するご意見を頂いた。生徒の生き生きとした活動、授業のアイデア、聴衆を意識した表現活動という視点などについて肯定的意見を頂いた。また、小学校との連携など、これからの授業のあり方として示唆に富んでいるとの評価を頂いた。今後も生涯にわたって音楽を愛好する生徒を育てるにはどうすればよいかという視点から、様々な手段で授業実践をしていきたい。

## 引用・参考文献

- 石井眞治ほか、「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造（1）」、広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育」、第33集、2001.pp.1～7.
- 黒瀬基郎ほか、「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造（2）」、広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育」、第34集、2002.
- 佐野 靖・山本文茂ほか、中学校音楽教育実践指導全集、第4巻、アカデミープロモーション、1999.
- 松前良昌・黒瀬基郎、「生涯にわたって音楽を愛好する『生き方』を学ぶ教育実践の創造」、広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育」、第33集、2001.pp.51～60
- 松前良昌・黒瀬基郎・濱本恵康、「生涯にわたって音楽を愛好するための音楽科授業の創造Ⅱ」、広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育」、第34集、2002.pp.63～72
- 峯岸 創、新中学校教育課程講座音楽、ぎょうせい、2000.